

科目	作業療法学特論Ⅳ	担当	大浦 智子	履修学年	4年
時間数	90分×時限×8回(週1回)	履修区分	必修	単位数	1単位

【授業目標・到達目標】

よりよい作業療法実践にむけて、作業療法の歴史、理論・モデルについて学ぶ。①作業科学の概念と歴史を理解する、②作業療法の理論、モデルについて理解し説明できる、③作業療法におけるパラダイムの発展と歴史を理解し説明できる、④作業療法計画における明確なリーズニングを説明できることを目標とする。

【履修注意】

作業療法の背景や理論を理解するということは、作業療法士の職業アイデンティティ形成につながる。臨床実習での経験と理論の統合をはかることを目指して、積極的な姿勢で取り組む。
※後期前半に2時限/週で4回実施の予定である。日程の詳細は、別途連絡する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート課題等を総合し評定する。

【試験について】

レポート

再試験対象者の条件： 学内試験規定に準ずる。

【予習・復習】

履修注意の通り、実習での経験と理論の統合をはかるために復習をすること。

【教科書】

書籍名：作業療法実践の理論 原書第4版 著者：Kielhofner G 山田孝・監訳 出版社：医学書院

【参考書】

書籍名：作業科学 著者：Zemke R, Florence C 佐藤剛・監訳 出版社：三輪書店

書籍名：「作業」って何だろう 著者：吉川ひろみ 出版社：医歯薬出版株式会社

その他、随時紹介する。

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	作業療法の理論の概観①	実践と作業療法の理論との関係
2	作業療法の理論の概観②	実践に必要な知識、パラダイム
3	作業療法の歴史とパラダイム①	作業療法の歴史、作業療法実践の発展
4	概念的実践モデルの特性①	各種理論・モデルの理解①
5	作業療法の歴史とパラダイム②	現代のパラダイム
6	概念的実践モデルの特性②	各種理論・モデルの理解②
7	実践におけるモデルの活用①	臨床実践とモデルの活用①
8	実践におけるモデルの活用②、まとめ	臨床実践とモデルの活用、まとめ、課題レポート
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		